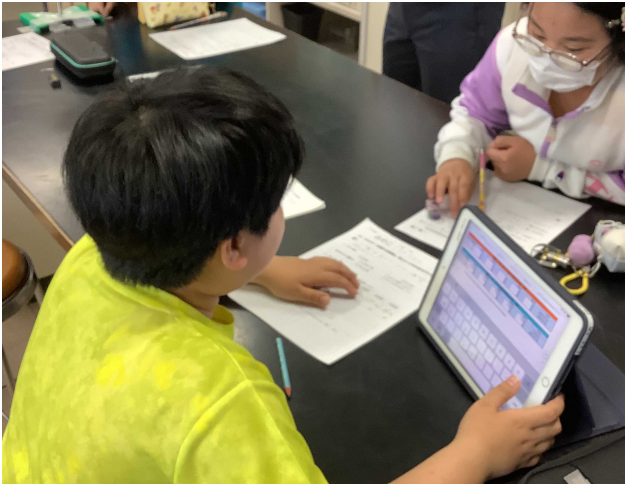


夕張市立ゆうばり小学校 校内研究紹介

校長 有村 宏紀



実験結果をタブレットで入力、送信中



児童の考えを1つの画面に並べて確認

研究主題： 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

副題： 思考力が育つ協働的な学びと学習評価の研究を通して

教科・領域： 算数科

公開研究会： 6月17日（月） 5年理科「ふりこ」（小田教諭）

11月25日（月） 4年国語「言葉で表す感じ、言葉から受ける感じ」

（大泉教諭）

参加対象： 夕張市内小中学校

「学習過程において協働的な学びを意図的に設定することによって、多様な考えに触れ、自らの考えを深めることができるであろう。」（協働的な学びの場の設定、ICT機器の有効活用）、「指導と評価に在り方について、その一体化を図り、児童の学習状況を的確に捉え、指導に生かすことで、学習に対する探究意欲を向上させるとともに、学びに向かう力を育むことができるであろう。」（思考力・判断力・表現力の評価の工夫、学びに向かう力を見とる振り返り）という2つの仮説を立て、研究授業で検証を行っている。

～校長所感～

本校では、令和の日本型学校教育の実現を目指し、「子どもを主語」とした教育を構築するために、主体的な学びを展開しています。その具体策としてICTを活用した個の学びと単元の中で意図的に計画した協働的な学びの深化です。そのため、教師が子どもの学びをコーディネートする授業展開を目指しています。同時に、その土台となる「心理的安全性の高い集団づくり」にも力を注いでいます。また、来年度から全ての研修を小中合同研修へと切り替えます。9年間の学びの連続性を重視しながら、夕張の子どもたちの成長を支えていきます。

「やる気一杯12歳!」、「熱量高き15歳!」を合言葉に「ふるさと夕張に誇りをもち、他者と協働しながら学びに向かい、新たな価値を創造する生徒」の姿を求めて、学校・保護者・地域が一体となって進んでいきます。